

学校名		白石町立有明中学校	
-----	--	-----------	--

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・新学習指導要領に対応した「主体的・対話的で深い学び」についての研究・実践を、道徳科で培った対話活動を生かしながら、さらに推進していかなければならない。 ・家庭学習においては、課題を提示する教師とそれに取り組む生徒が十分に呼応しておらず、定期的かつ計画的に学習課題を与えていたにもかかわらず、きちんとやり遂げることができていない生徒が多かった。今後は学校と家庭が連携した取組み強化が必要である。 ・ソーシャルスキルトレーニングや対話活動については、継続的な取組みが大切なので、次年度も取り組んでいきたい。 ・いじめ問題を含めた生徒指導に関しては、今後も継続して「生徒指導協議会」を中心に生徒の実態把握と状況分析に努め職員一丸となった早期発見・早期対応を維持していく。 ・発達障害のある生徒、その傾向があると思われる生徒への支援をさらに充実させる。				
2 学校教育目標	心身ともに健康で、主体的に学び行動し、未来を拓く生徒の育成				
3 本年度の重点目標	1 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した指導方法の工夫と実践 ⇒「対話」を軸とした「わかる」「できる」「やれる」授業づくり 2 自ら考え正しく判断し、他を思いやる行動ができる生徒の育成 ⇒率先あいさつ、ノーチャイムスクールの実践、「ハートフル宣言」の定着、無言掃除 3 特別支援教育・教育相談推進体制の構築 ⇒個々の生徒の特性・個性についての的確な理解と情報共有…生徒指導協議会での情報提供 ⇒全職員での個別の支援内容、指導事項の共有及び支援体制の構築 ⇒全ての生徒が「安全・安心」を実感できる教育環境の整備 4 部活動マネジメント力の向上 ⇒生徒を主体とした計画的・効率的な部活動の実践 ⇒「働き方改革」に伴う職員の負担軽減及び「部活動指導ができる日」の設定 5 学校・家庭・地域・小学校とのつながりを大切にした「地域とともにある学校づくり」 ⇒「地域貢献」「学校支援」「小中・小小連携」の推進体制の構築				

4 重点取組内容・成果指標		中間評価		5 最終評価		主な担当者			
(1)共通評価項目									
重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師60％以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。		・		・	学力向上CN	
	○「主体的・対話的で深い学び」の実現	○授業で発表し、話し合いに積極的に参加したりする生徒の割合を80％以上にする。	・すべての授業で対話活動をできるだけ多く取り入れることを前提とした授業研究を行う。		・		・	学力向上CN	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎進路指導やキャリア教育を充実させることによって、将来の夢や希望をもっている生徒の割合を80％以上にする。	・キャリア教育を充実させることによって、生徒が主体的に「自らの生き方」を考え進路決定できるようにする。またキャリアパスポートの活用について研修を深める。		・		・	進路指導主事	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校は安全で、安心して生活できる学校だと思いますか。」という問いに「そう思う」と答える生徒の割合80％以上をめざす。	・「学校生活アンケート」を定期的に行い、その結果内容を生徒指導協議会において全職員で共有し対処していくことで早期解決をめざす。		・		・	生徒指導主事 教育相談担当	
	◎自ら考え正しく判断し、他を思いやる行動ができる生徒の育成	◎「自分の心を磨く」という気持ちで時間いっぱい掃除に取り組む生徒の割合を80％以上にする。 ◎時計を見て行動し、ノーチャイムや3分前着席の取組ができる生徒の割合を80％以上にする。	・生徒会活動を中心にして取り組みせ、生徒の自主的な取組みが促進されるよう支援を行う。		・		・	生徒会担当 環境整備担当	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85％以上をめざす。	・早寝、早起き、朝ごはんの充実を、保健指導、食に関する指導、その他健康教育を通して向上させる。		・		・	食育担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎月の部活動休養日(第3日曜)及び定時退勤日(毎週水曜日)の徹底を図る。 ・休養を含めた上での業務内容の見直しを行い、業務を失くす・減らす・変えるの視点で検討していく。		・		・	教頭 部活動担当	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						主な担当者			
重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）		実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育・教育相談推進体制の構築	○配慮を要する生徒への支援体制の充実	○個別指導・支援の時間数を生徒一人に対して400時間以上になるよう時間割を編成する。	・専門家による巡回相談を積極的に活用し、本校支援体制に対する助言を積極的に受け入れ、支援をよりよく改善していく。 ・支援できる環境を可能な限り整える。		・		・	特別支援教育CN 教育相談担当	
○部活動マネジメント力の向上	○生徒が主体的に活動できる計画的・効果的な部活動の実践	○部活動が充実していると答える生徒の割合80％以上をめざす。	・生徒を主体とした部活動の在り方やコーチング技術の向上を図る研修を実施する。 ・「部活動指導ができる日」の設定		・		・	部活動担当	
○学校・家庭・地域・小学校とのつながりを大切にした「地域とともにある学校づくり」	○地域の方々・小学校の職員・児童との相互交流活動の推進充実	○地域・小学校・家庭との交流・奉仕活動等の回数10回以上をめざす。	・地域の活動や小学校の行事に積極的に参加したり、校外活動やボランティア活動に取り組んだりして地域に貢献する。		・		・	各学年 生徒会担当	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・								